

【特別講演要旨】

農薬の生態リスクの評価と管理

国立研究開発法人農業環境技術研究所 永井孝志

前半部では農薬の生態リスクの評価の現状と現在進行中の研究について解説する。まず、現状の生態系保全に関する農薬規制の状況と、毒性試験で使用される魚類、ミジンコ、緑藻という現状 3 種の試験生物に対する感受性の問題点を指摘する。そして、幅広い生物種の毒性データを活用するための手法とそれを用いた新たな生態リスク評価手法について説明する。さらに、近年推進されている、農薬使用を 5 割低減させるなどの環境保全型農業が、実際に農薬のリスクをどの程度低減させる効果があるのかについて、演者らが最近解析した結果について紹介する。

後半では、ネオニコチノイド系殺虫剤がいまなぜ問題となっているのかについて基本的な解説を行う。まず、世界の規制動向と、特に欧州で規制強化された背景について説明する。続いて、ヒトや水生生物、ミツバチに対する毒性の特徴について、他の殺虫剤群との比較を行いながら整理する。このような事実関係を踏まえた上で、ネオニコチノイド系殺虫剤が生物に与える影響を考える際の注意点についても整理したい。